

ようこそ校長室へ！

No. 25

令和5年8月10日

発行：貝塚敦

に にこにこ笑顔で い いつもみんなで つ 紡ぎ繋げる心で に 日本一をめざすのだ

ニ イ ガ タ アイデンティティ **NIIGATA IDENTITY**

8月に入り、部活動の北信越大会が各地で開催されました。当校からは、水泳競技で複数の生徒が出場。当校に水泳部は設置されてはいませんが、地域のクラブで頑張ってきた生徒が、新津二中所属で出場し、いくつかの種目で入賞を果たしました。その栄誉を大いに称えたいと思います。来週からは、いよいよ、順次、四国地方をメイン会場に全国中学校体育大会が始まります。

8月6日には、上越文化会館での県の吹奏楽コンクールの激励に出向き、当校吹奏楽部のすばらしい演奏を聴いてきました。そして、各地区大会から県大会に進んだ12校の中から、上位大会である西関東大会(9/2所沢市開催)への出場権を、当校が見事獲得しました。

高校でも、インターハイが7月末から8月にかけて各競技随時開催され、8月6日には、夏の全国高校野球大会が甲子園で始まりました。こんな暑い暑い夏に、こんなにも熱い熱い戦いが、様々なところで繰り広げられています。応援する方も熱が入りますが、それ以上に選手やメンバーの子どもたちの奮闘に敬意を表するものです。

様々な大会の出場校や大会結果等に接するにつけ、自校でなくても、新潟県出身の選手や新潟県のチームが勝つと嬉しく誇らしく感じます。また、新潟県でなくても、練習試合や大会で馴染みの近隣・近接の選手やチームなどが勝つのもまた同様に嬉しいものです。

やはり、郷土愛、親近感、国同士の大会であれば、いわば愛国心が沸くのでしょうか。おらが県、おらが地域、おらの街、おらが国の選手やチームの活躍は、本当に心躍るものです。

さて、前述のように、吹奏楽部が西関東大会に出場しますが、これまで勤務した中学校でも、同じような機会が何度かありました。そして、このことがきっかけで、私には、毎度毎度ある素朴な疑問が沸き起こります。私だけでなく、広く一般にこれまでも幾度となくいろんなところで話題にのぼっていることですので、皆さんも同

じことを思い描いた覚えがある人も少なくないはずです。

それは、一体「新潟県は何地方？」なんだ、ということです。

中学校の体育大会は「北信越大会」、吹奏楽は「西関東大会」、合唱は「関東大会」。

社会科の教科書（東京書籍）では、新潟県は「中部地方」に属しており、「中部地方」は、東海、中央高地、北陸の3つに細分化され、新潟県はその中の「北陸地方」に属していると書かれています。

NHKの天気予報等の放送では、「関東甲信越地方」に含めて扱っています。ガスの利用は「北陸ガス」、電気は「東北電力」。

選挙区は「北陸信越」、財務省は「関東財務局」、防衛省は「北関東防衛局」、厚労省は「関東信越厚生局」という具合です。

因みに、2020年10月の県議会一般質問で、ある県会議員の方から「新潟県の属する地域はどこになるのか？」という質問がありました。それに対して、当時も今も県知事である花角知事は、「本県の属する地域について、統一的な整備はありません。特定の地域に限定されず、多様な枠組みを活用していくことに意義がある。」と回答しました。つまり、私個人の解釈では、新潟県は、いろいろな地域と幅広く連携できることを最大限の強みにしながら、様々な課題解決を図れるメリットがあるという意味だと受け止めています。

さて、学校では、子どもたちは、仲のいい人や気の合う人と一緒にいたり行動を共にする人がほとんどです。大人の社会でもそれは例外ではありません。そのための友達ですから。

お互いがお互いを認め合い支え合い高め合う関係であれば問題ありません。でも、いわゆる、一人じゃ何もできないくせに、誰かをつるめば度を外したことができる、徒党を組めば悪いことだって怖くない、は論外です。子どもたちには、気が合おうが合わないだろうが、集団や仲間とは、どんな形であれ誰とでも協働し互いの成長を支え合える関係、どんなグループの中でもうまくやっていける人間に育ててほしいと思います。

しかし、その一方で、他人とははっきりと区別されるべき個性や独自性や主体性のある、「自分は自分」なんだという確信・自信をもったアイデンティティを確立することも重要なことです。

新潟県は、一見するとどこにも属さない一匹狼。でも、いつでもどこでも誰とでも組める懐の深さと大らかさを有する誇り高き県。子どもたちにもそんな新潟県の姿をモデルに生きてほしいものです。